
<テーマ別IR説明資料①>

『りそなのSX(サステナビリティ・ トランスフォーメーション)戦略』



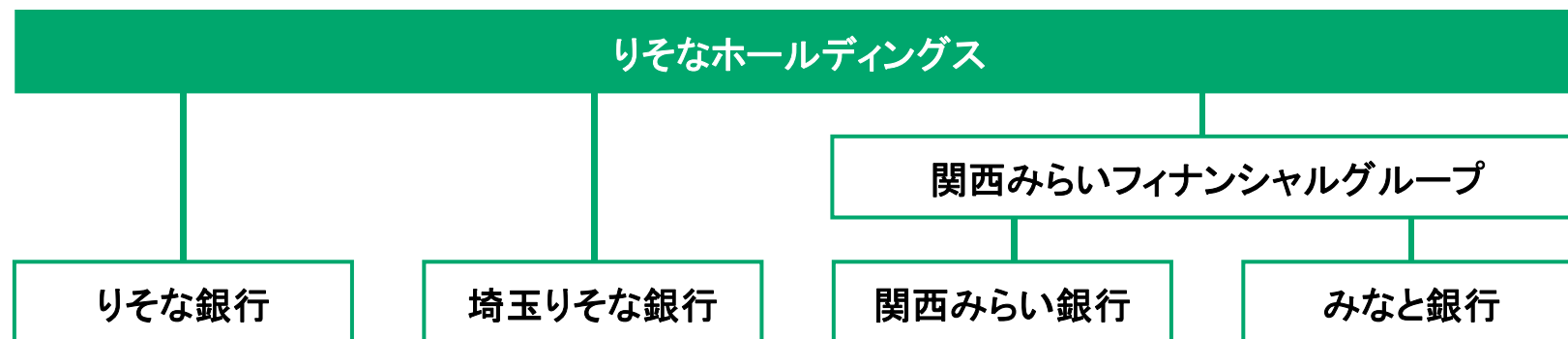
2022年2月

りそなホールディングス
グループ戦略部 SDGs推進室

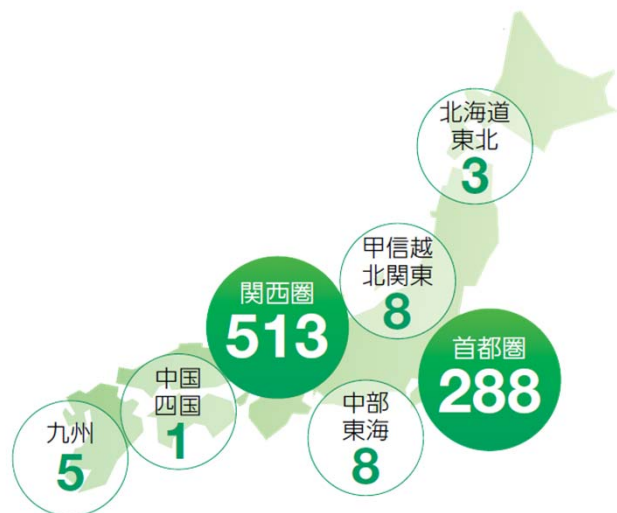
りそなグループのご紹介

想いをつなぐ、未来を形に。 *Next Action* RESONA GROUP

【グループ構成】



【店舗網*1】



【顧客数・預貸金*1】

個人顧客数 約**1,600**万人

法人顧客数 約**50**万社

預金 約**58**兆円

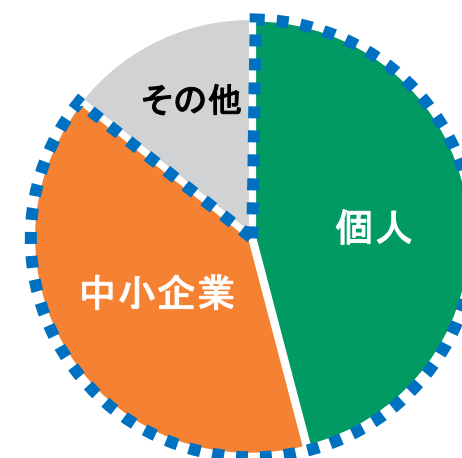
貸出金 約**38**兆円

従業員数 **20,308**人

（上記以外の臨時10,318人）

【貸出金ポートフォリオ】

約8割が中小企業・個人のお客さま向け



*1. 2021年3月末時点

「『企業は、お客さまや市場に価値を提供するのが存在理由』であり、
『社会に何をもたらすために存在するのか』という基本命題を正面に据えながら
経営の原点に立ち返る必要がある」

「りそなグループが持続的に成長していくためには、『良きことを行う企業』であること、
そして、その企業で働く人は『良き人間』である必要がある」



りそなのSDGs経営の礎

細谷英二 元会長（故人）

2003年6月、りそなグループへの公的資金注入に伴い、
東日本旅客鉄道副社長からりそなHD会長に就任し、
その後の「りそな改革」を牽引。

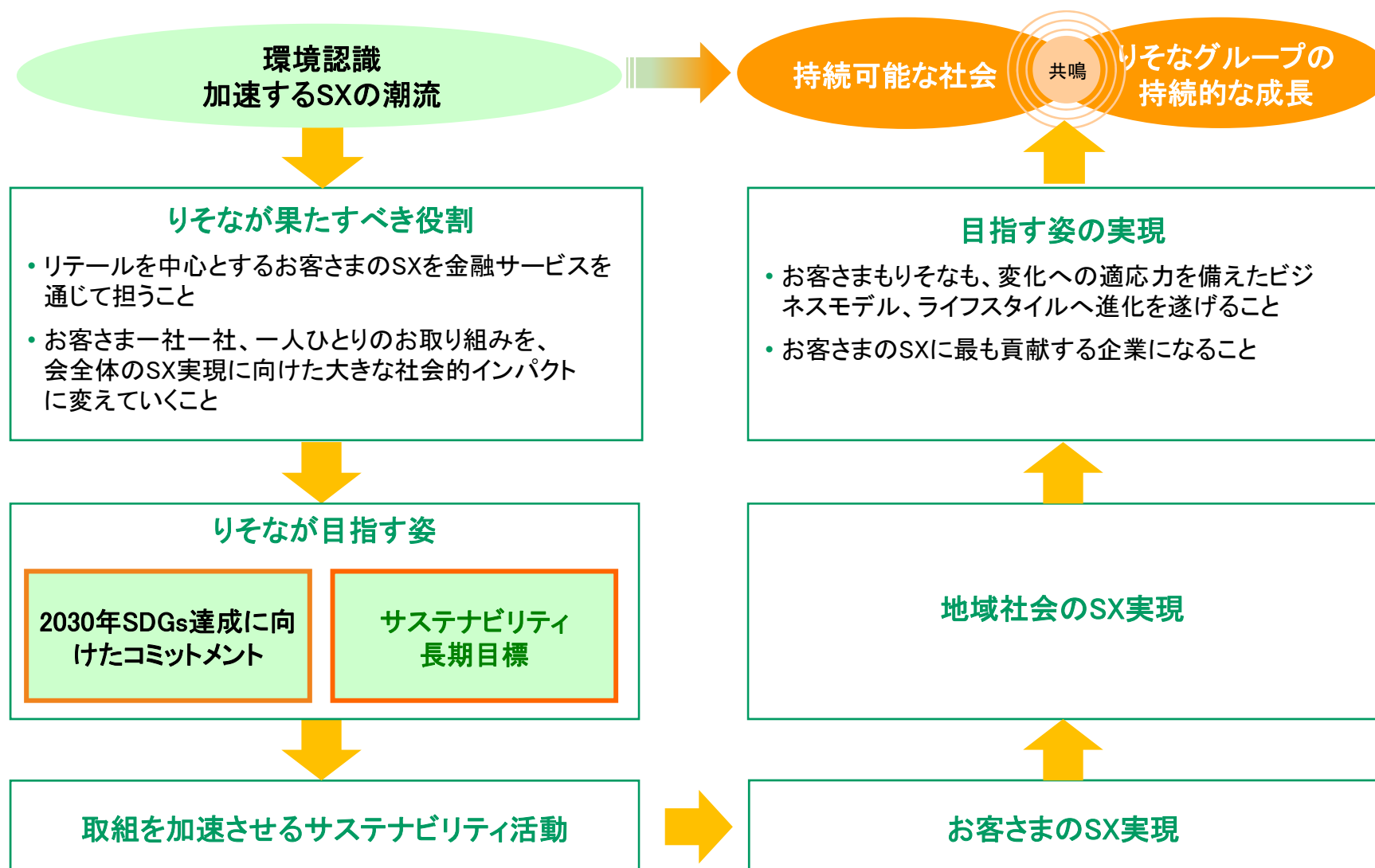
細谷元会長のこれらの言葉は、経営理念とりそなWAY（りそなグループ行動宣言）を具体的行動レベルで
明文化した「りそなSTANDARD（りそなグループ行動指針）」の冒頭に記載され、りそなグループ従業員の
「道標」となっています。

りそなグループのSX※全体像

想いをつなぐ、未来を形に。 *Next Action* RESONA GROUP

※ サステナビリティ・トランスフォーメーション

持続可能な社会に向けた世の中の変化を先取りし、企業のビジネスモデルや個人のライフスタイルを自ら変化させていくこと



2030年SDGs達成に向けたコミットメント

想いをつなぐ、未来を形に。 *Next Action* RESONA GROUP

■ 2018年11月に策定（マテリアリティごとに「方向性」を明確化）

テーマ	SDGs	コミットメント
地域	地域経済の活性化 	1-1 環境・社会課題をテーマとした建設的な対話等により、お客さまとともに持続可能な社会の実現を目指します。 1-2 企業のスタートアップ支援や成長支援、社会インフラの効率運営のサポート等を通じて、地域経済の活性化、暮らしやすい街づくりに貢献します。 1-3 誰もがいつでもどこでも簡単に利用できる、先進的な金融サービスの提供を通じて、社会や暮らしの利便性向上に貢献します。
少子 高齢化	少子・高齢化に起因する 将来不安の解消 	2-1 金融コンサルティング、金融経済教育等の金融リテラシー向上の取り組みを通じて、将来に向けた資産の形成、承継をサポートし、生涯にわたる生活の質の向上に貢献します。
環境	地球温暖化・気候変動 への対応 	3-1 再生可能エネルギーの利用促進、温室効果ガス排出量の削減等、社会全体の環境負荷低減に積極的に取り組み、低炭素・循環型社会の実現を目指します。
人権	ダイバーシティ& インクルージョン 	4-1 人権や多様性を尊重し、誰もが仕事も生活も充実させ自分らしく活躍できる社会づくりに貢献します。

サステナビリティ長期目標

想いをつなぐ、未来を形に。 *Next Action* RESONA GROUP

■ 2021年6月に策定（「時間軸」を明確化）

融資・投資の目標感

1

リテール・トランジション ・ファイナンス目標

累計取扱高 10兆円
(2021～2030年度)

[対象とするファイナンス]

リテールのお客さまの意識・行動
のトランジションに向けて、現在地
からの着実な前進に資する
ファイナンス*1

2

カーボンニュートラル目標

CO2排出量 実質ゼロ
(～2030年度、SCOPE1,2)

自社調達電力の再エネ化を積極
推進し、当グループのエネルギー
使用に伴うCO2排出量を2030年度
までに実質ゼロを目指す

3

女性登用・活躍推進目標

現状+10%以上
(～2030年度)

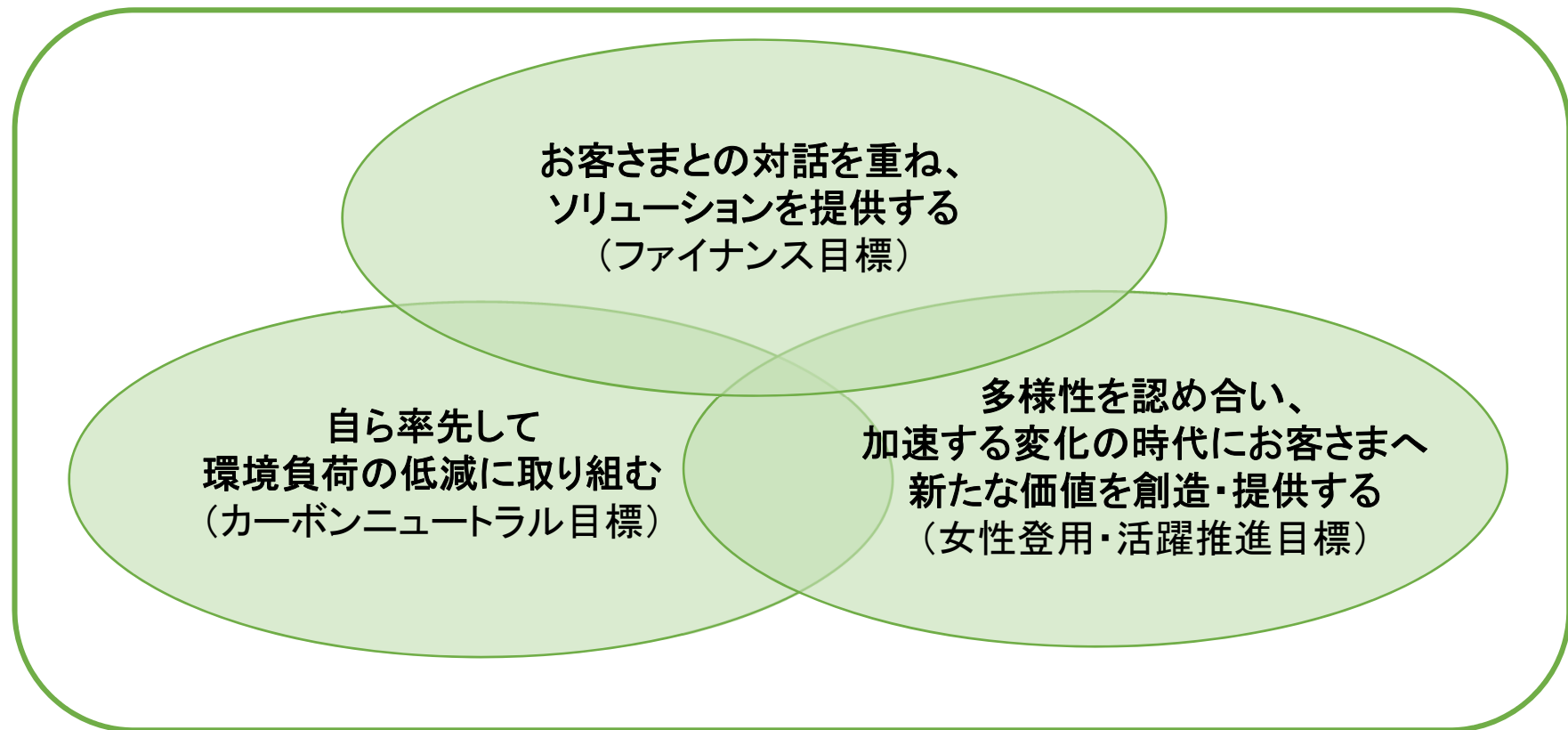
女性役員比率*2 30%以上
女性経営職階比率*3 20%以上
女性ライン管理職比率*3 40%以上

*1. 再エネ関連事業等のグリーンプロジェクト、第三者認証を伴う大企業向けファイナンスも含む
*2. HD
*3. グループ6社(HD、RB、SR、KMFG、KMB、MB)の合算

3つの長期目標の関係

- お客さま、当社のSX実現に向けて、対話を重ね、ソリューションを提供していくこと、
- そのために自らも変革していくことへの意思表示

お客さま・リそなのSX



リテール・トランジション・ファイナンス目標

想いをつなぐ、未来を形に。 *Next Action* RESONA GROUP

お客さまとの「対話」の深化

お客さまの現在地を共有する対話ツールや
ESG事業性評価手法の開発など



「ソリューション」の強化

SDGsコンサルファンドのメニュー拡大
CO₂排出量算定サービス、
ESG目標設定付ローンなど

リテールのお客さまの意識・行動のトランジションに向けた着実な前進をサポート

■「持続可能な社会」を支える中堅・中小企業

企業数
約99.7%*1

従業員数
約70%*1

付加価値
創造
約53%*1

■お客さまのSX取り組みステージは様々

法人分野

持続的な収益力強化、ビジネスモデル転換

優先取組目標設定

自社現在地(リスク・機会)の把握

情報収集、参画 ⇒ 意識醸成

■対話の深化

- SDGsヒアリング(2021/10月～)
- ESG事業性評価手法の開発

■ソリューションの強化

2021/10・11月～
ESG目標設定付
貸出新商品

サステナビリティ・リンク・ローン(SLL)
私募グリーンボンド(GB)

「りそなSXフレームワークローン」(RB)

「TryNow」(SR、KMB、MB)

SDGsコンサルファンド
・SDGsマッピング+簡易PR支援コンサル
・CO₂削減コンサルサービス

2021/7月～
メニュー拡大

SDGsコンサルファンド
・社内浸透支援コンサル
・サプライチェーンリスク対応支援コンサル

SDGs私募債

中小企業

中堅企業

大企業

サステナブルの取り組みステージ

*1. 中小企業白書2021

りそなSXフレームワークローン

想いをつなぐ、未来を形に。 *Next Action* RESONA GROUP

- お取引先が考案したサステナビリティ戦略に基づく中長期的な数値目標を、貸出案件に設定し、当社と一定期間達成状況を共有しながら目標達成を目指す融資商品
- お客さまのサステナブルな取組を外部アピールにご活用いただくことが可能

フレームワークローンの流れ



R&I

スキームに対する評価

外部評価機関から評価を取得した本件利用により、SDGsの取組に対する透明性やアカウンタビリティを対外的に示すことが可能となります。

① サステナビリティ戦略における主要KPI (SPTs)、目標値の選定・策定
※ KPI及びSPTsは予め当行で複数項目用意

② 設定したKPI及びSPTsに対する要件確認

③ 契約締結
※ 通常の金銭消費貸借契約を締結
SPTs設定は別の約定

融資実行

④ 年に一度、貴社から当行に対し、達成状況を簡易レポートニング

⑤ 年に一度、りそな総研からりそな銀行に対し、取組状況に対するレビューを作成

※以下のいずれかの目標を設定
(以下の目標以外の個別設定も可能)

1. 温室効果ガス排出量の削減率
2. 再生可能エネルギーの使用率
3. 男性の育児休業取得率

4. 第一子出産前後の女性の継続就業率
5. 容器包装廃棄物のリサイクル率
6. 事業系食品のロス量削減率

既存・将来の事業と社会への貢献や継続的な事業の発展を結び付け、
製品・サービスを通じた取組みを数値化し、将来像を明確にする

ステップ①

SDGsを理解する

- SDGsを十分に理解し、既存の取組を整理
- 事業とSDGsの関係を認識

ステップ②

優先課題を決定する

- 既存事業や将来をSDGsと結び付け、「何を優先的に事業に組み込み、SDGsに取組むか」を整理

ステップ③

KPIを設定する

- SDGsの取組に関する優先事項を決め、「事業と取り組みが結びつく、長期的なKPI(重要評価指標)」を設定

ステップ④

SPTsを設定する

- 長期的なKPIの達成に向けて、3年後を目安に数値目標(SPTs)を設定

ステップ⑤

達成状況を共有する

- 共有した優先課題や数値目標を活用し、SDGsに関するパフォーマンスを強化
- 当初設定したKPI・SPTsの達成状況を振り返り、更なる取り組みの強化を目指していく

お客さまと銀行の協働

カーボンニュートラル目標

想いをつなぐ、未来を形に。 *Next Action* RESONA GROUP

■ 2021年6月に公表した「サステナビリティ長期目標」の1つとして、以下を策定

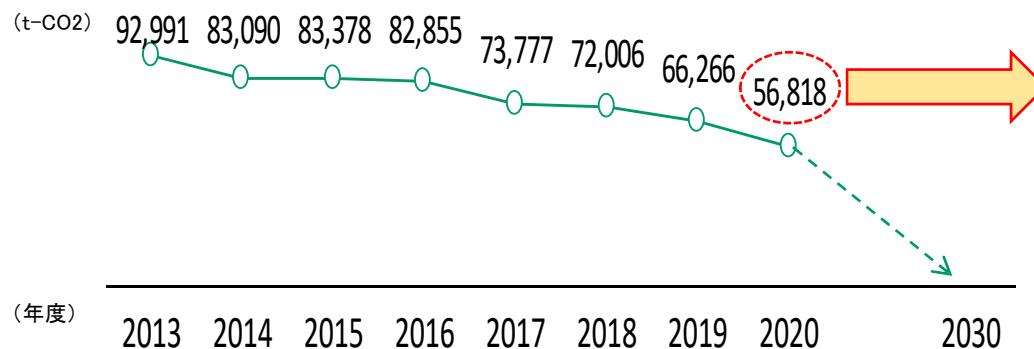
カーボンニュートラル目標

自社調達電力の再エネ化を積極推進し、当グループのエネルギー使用に伴うCO2排出量 (Scope1・2) を2030年度までに実質ゼロ

(補足)

- 上記目標策定前は、「2013年度を基準として、2030年度のCO2排出量を26%削減」という目標を設定
- Scope1: 自ら化石燃料(ガス・ガソリン・重油等)を燃焼して出した直接排出
- Scope2: 他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出

■ CO2排出量の推移



■ 排出量の内訳

SCOPE1	5,428
SCOPE2	51,390
うち電力使用	50,181

特徴	全体の約9割近くが電力使用によるもの
----	--------------------

目標達成に向けた対応策

- 排出量の9割を占める「電力」を最優先に、再エネ等の導入によるCO2削減を実施していく組立
- 但し、賃借物件についてはオーナー（貸主）が電力プランを決めているものがあり、別途の交渉が必要なものもあるため、自社所有物件を優先して対応予定
- 最終的に削減できなかった部分については（電気以外も含め）排出権取引による相殺を検討

主なエネルギー種類	主な削減方法	対応の方向性
電気（自社契約）	● 再エネ、クリーンエネルギーの導入	● 電力使用量の大きな拠点から順次再エネ等を導入
電気（貸主契約）		● 貸主交渉の優先順位を整理のうえ、順次導入
都市ガス	● メタネーション（人工メタン生成）の活用 ● 最終的に残存する部分は排出権取引を活用	● 具体的な対応方法について調査中
ガソリン	● 電気・水素自動車へ入替 ● 最終的に残存する部分は排出権取引を活用	● リース契約期限との兼ね合いを見て順次入替等（充電設備も並行して実施）

■ 主要施設における再エネ導入状況

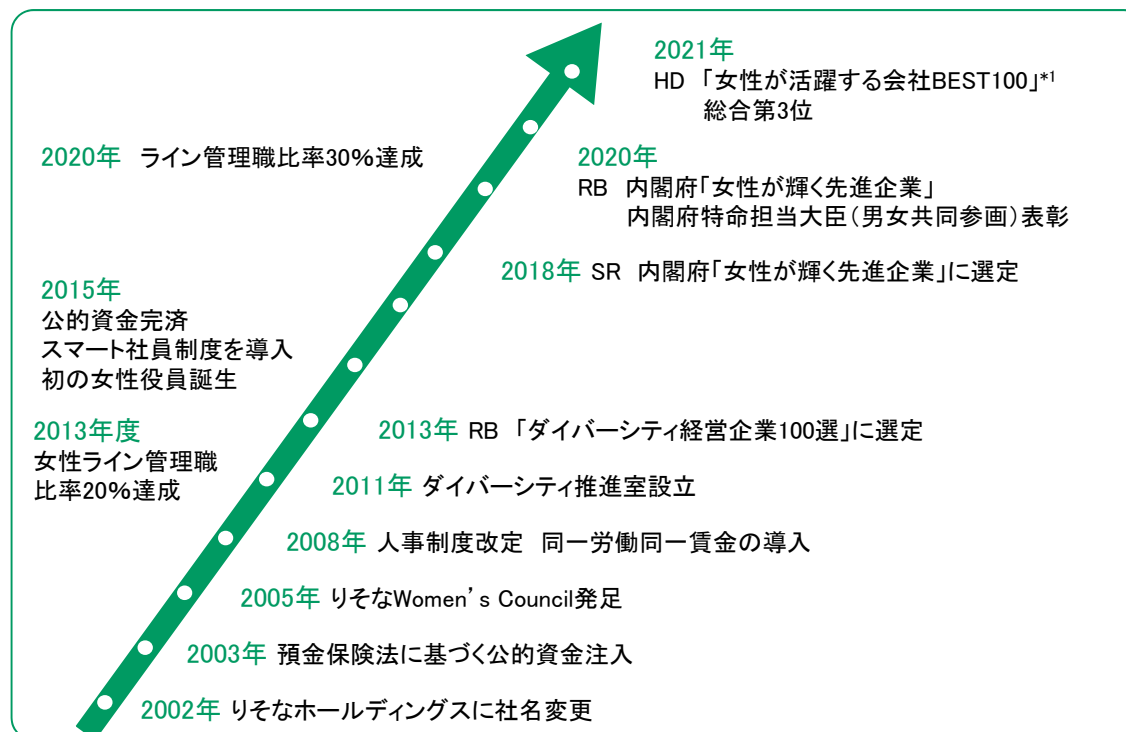
対象施設	りそなGr 大阪本社	SR 本社	KMB びわこビル	MB 本店
CO2削減量見込／年	△2,325 t-CO2	△1,300 t-CO2	△146 t-CO2	△560 t-CO2
導入時期	2021/8月	2021/6月	2021/6月	2021/8月

■ その他の検討事項

- 環境配慮型店舗の導入
- 主要施設への太陽光パネルの設置（いわゆる創電）

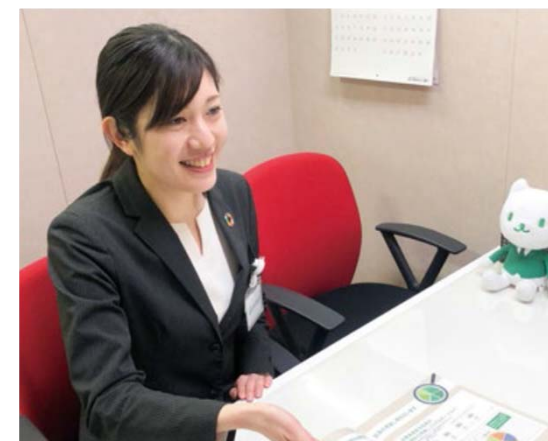
多様性を活かした企業価値の創造

■ りそなの強みである「女性による価値創造」をさらに強化



多様性を活かした企業価値の創造 働きがいの実現

女性比率	2021年	2030年度
役員 (りそなHD)	19.2%	30%以上
ライン管理職 (グループ6社*2)	約30%	40%以上
うち経営職階 (グループ6社*2)	約10%	20%以上



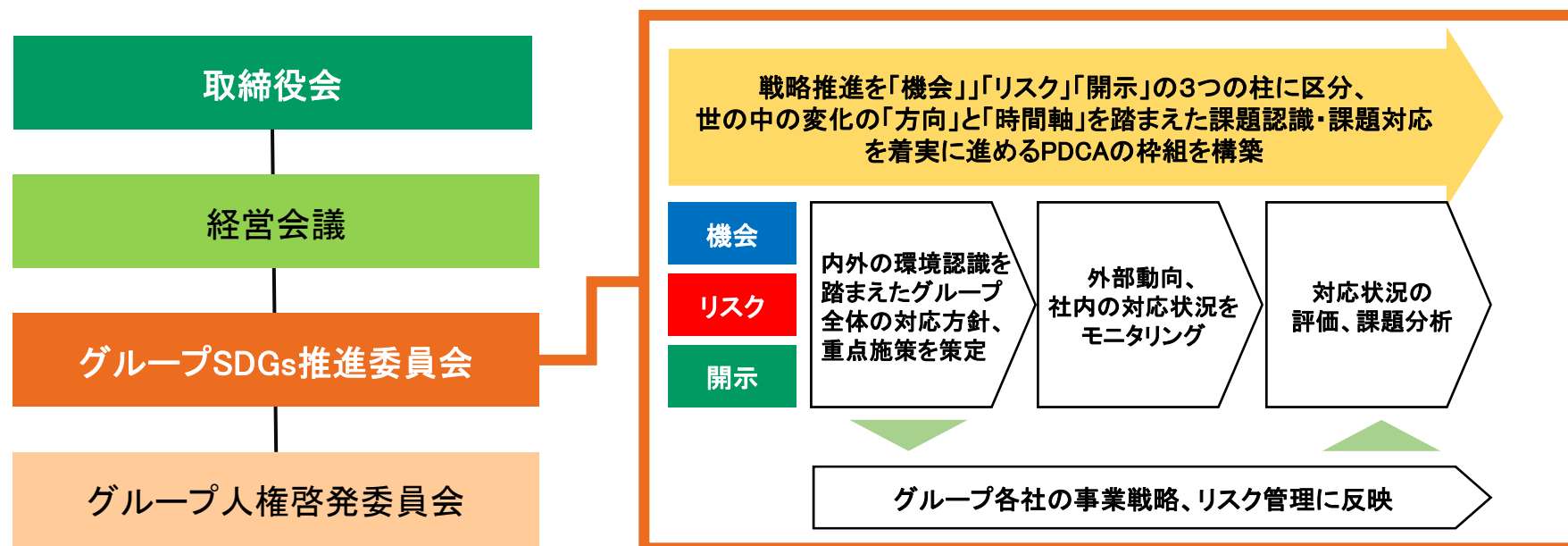
■ 多様性・専門性重視の人財ポートフォリオ構築

- 新人事制度(2021/4月～)
 - 業務分野別コース(約20)からなる複線型人事制度
 - 選択定年制 ⇒ 年齢にとらわれない評価・処遇
- 企業内大学「りそなアカデミー」(2019/7月～)

*1. 日経WOMAN 企業の女性活躍度調査2021 *2. HD、RB、SR、KMFG、KMB、MBの合算

SX推進体制（経営レベル）

- リそなホールディングス（親会社）に「グループSDGs推進委員会」を設置
- 経営レベルのグループ横断的な協議の場として活用



■ グループSDGs推進委員会の主なメンバー

【委員長】 リそなホールディングスの社長

【主要メンバー】 各銀行の社長、経営管理部署、リスク管理部署、人事部門、管財部門、財務部門

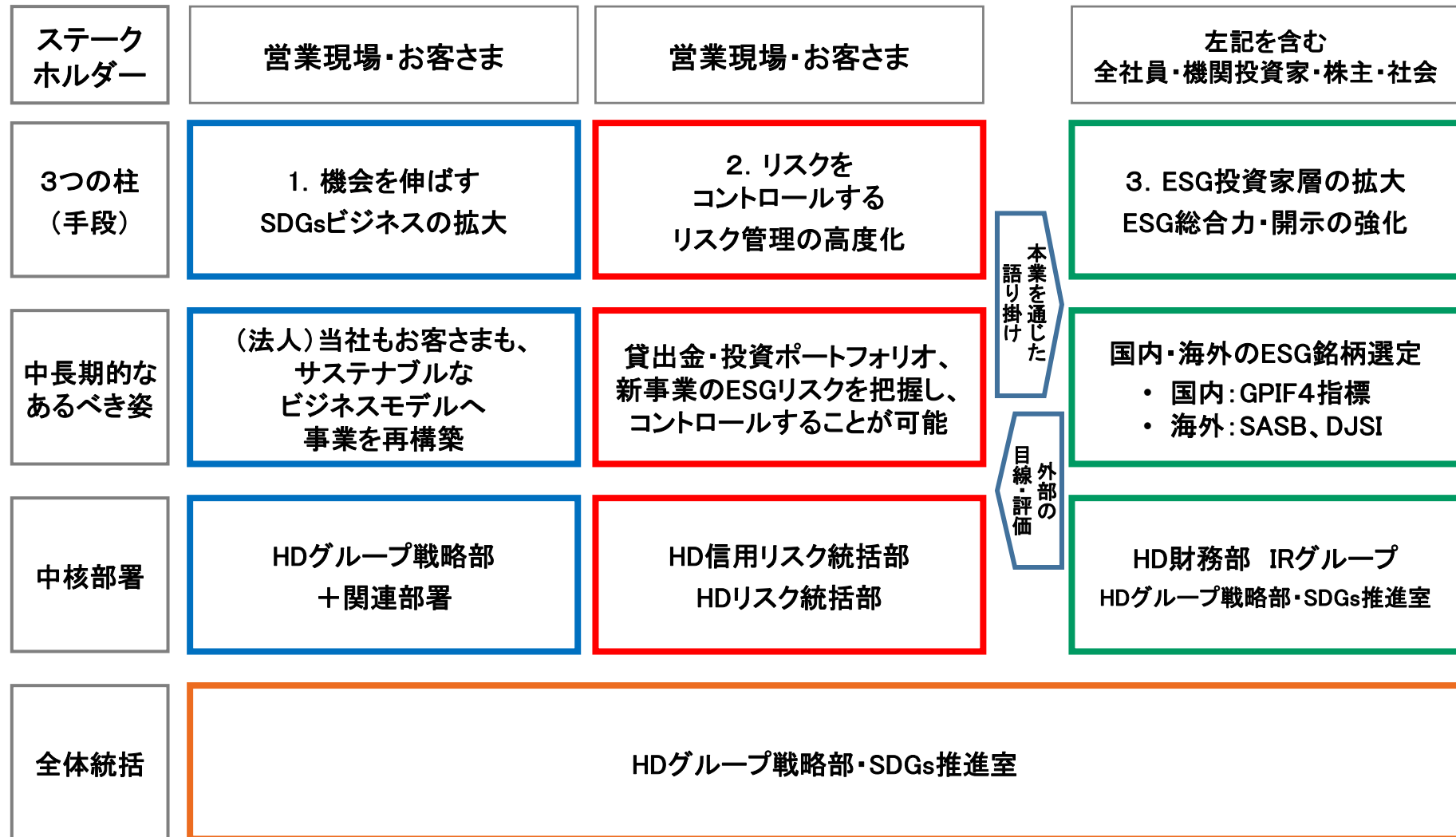
法人・個人の営業部門等の担当役員など

■ 開催頻度

四半期ごとに開催

SX推進体制(部門レベル)

- 「機会」「リスク」「開示」3つの柱ごとに、グループを統括する「中核部署」を明確化
- 全体をSDGs推進室が統括



- 本資料における表記の定義は下記の通りです。

[HD] リそなホールディングス、[RB] リそな銀行、[SR] 埼玉りそな銀行、

[KMFG] 関西みらいフィナンシャルグループ、[KMB] 関西みらい銀行※、[MB] みなと銀行

※[KU] 関西アーバン銀行 と [KO] 近畿大阪銀行 が2019年4月1日に合併

本資料中の、将来に関する記述(将来情報)は、次のような要因により重要な変動を受ける可能性があります。
 具体的には、本邦における株価水準の変動、政府や中央銀行の方針、法令、実務慣行および解釈に係る変更、新たな企業倒産の発生、日本および海外の経済環境の変動、並びにりそなグループのコントロールの及ばない要因などです。
 本資料に記載された将来情報は、将来の業績その他の動向について保証するものではなく、また実際の結果と比べて違いが生じる可能性があることにご留意下さい。